

日本でのモノづくり維持



東北で車生産を拡大し、復興を後押しする（セントラル自動車宮城工場）

生産コスト減へ日々革新 「スリム化」「柔軟性」追求

生産の現場でも、コスト競争力向上を狙いに技術革新に日々、知恵を絞る。11年に稼働したセントラル自動車宮城工場（宮城県大衡村）では組み立てラインで車両を横向きに置いて流し、ライン長を短縮。天井から車両をつり下げるコンベヤーで搬送する手法で工場の高さを下げ、建設費を抑えた。同工場には「スリム化」と「柔軟性」を徹底追求した成果が凝縮されている。

トヨタ元町工場（愛知県豊田市）では、2年後をめどに年間数万台の少量生産向けに新しいプレス加工手法を導入する。全車種一律の耐久性を見直し、生産量に合わせた耐久性の水準を設定する。ベトナム工場を導入しているこの手法を逆輸入して、低コストな生産体制を構築する。

「日本のモノづくりの技術やネットワークで技術革新すれば、世界と戦える」と生産担当の新美篤志副社長は言い切る。東北には小型車、九州には高級車、「レクサス」やスポーツ目的車（SUV）など拠点ごとに同一サイズの車種を生産する体制に移行。さらに1月には商用車やミニバンを生産するトヨタ車体や小型車生産の関東自動車工業を完全子会社化した。開発などの権限と責任を今まで以上に持たせ、グ

ループ全体の競争力を高める。国内の需要拡大にも力を注ぐ。「日本のモノづくりを残すため、内需拡大で国内の皆さまにトヨタを支えていただきたい」。1月に名古屋市内で開いた販売店代表者会議で、豊田社長はこう訴えた。これまでは販売店に過度の重圧をかけないよう発言を控えめにしてきただけに、販売店には驚きが広がった。

トヨタは12年の国内販売目標を前年比36%増の163万台と設定。国内生産は11年は前年比16%減の276万台だったのが、エコカー補助金などの追い風が吹く12年は300万台超えとする方針。

輸出比率は現在の6割からさらに引き上げたい考え。輸出比率を下げるには必然的に国内販売を拡大するしかない。豊田社長の訴えにはこうした背景がある。

国内販売を少しでも積み増しつつ、日本ならではのモノづくりの技術を創出し続ける。これが国内工場の生き残りの力となる。

TOKAI RIKKA

触れた瞬間、クルマとの対話が始まる。

感動をかたちに

〒480-0195 愛知県丹羽郡大口町豊田三丁目260番地
Tel.(0587)95-5211 Fax.(0587)95-1917
www.tokai-rika.co.jp/

株式会社 東海理化



大切な人と絆を深める。家族と思い出を重ねていく。

そんなクルマの中で過ごす色とりどりの時間を、人生にとってかけがえのない一刻にしていきたい。

トヨタ紡織はその想いをエネルギーに、快適な移動空間の創造に取り組んでいます。

Design your passion

トヨタ紡織
TOYOTA BOSHOKU

トヨタ紡織株式会社 愛知県刈谷市豊田町1丁目1番地 www.toyota-boshoku.com

世界の道で、乗る人の「うれしさ」を学び続ける。



そのクルマは、ヨーロッパの石畳を走るかもしれない。

そのクルマは、灼熱の砂漠を走るかもしれない。

そのクルマは、極寒の凍結路を走るかもしれない。

アイシン 精機、特殊試験路。ここには世界のあらゆる道がある。

どんな環境でも満足してもらえ一台のために、このテストコースでコンピュータで究めた製品を、さらに、乗る人の気持ちになって鍛えていく。

すべては、クルマの部品やシステムの開発段階から、乗る人の「うれしさ」を学び、求められているものをカタチにするために。

AISIN
One Team, Best Future

アイシン精機株式会社
〒448-8650 愛知県刈谷市朝日町2丁目1番地 www.aisin.co.jp

超円高と一律背反の課題

超円高と日本でのモノづくりの維持。日本の自動車メーカーが一律背反する課題に直面している。円高を受けて輸出車両の海外生産にともなわず、海外生産車の逆輸入も相次ぐ。しかし、トヨタ自動車は現行水準の国内生産300万台の死守の看板を下ろしていない。日本の製造業がかつてないほど空洞化の危機にさらされる中、トヨタは限界に挑み続ける。

「日本のモノづくりにこだわる」。豊田章男トヨタ社長はこう繰り返して強調してきた。ただ1ドル70円台に突入する歴史的な円高となった2012年3月期は、トヨタ社内でもさまざまな意見を戦わせた1年でもあった。11年5月の決算会見。財務担当の小沢哲副社長は「正直に言っても、（国内生産は）限界と感じている。社長に進言せざるを得ない」と豊田社長の前で語った。トヨタの営業利益はドルに対して1円の円高で320億円、ユーロに対して50億円目減りする。円高の進展

で輸出採算が悪化し、国内事業を中心とする12年3月期単体決算は、82年の工販合併以降初の当期赤字となる見通しだ。商品力の高さと自国の通貨安という追い風もあり、独逸のフォルクスワーゲン（VW）は12年の世界販売台数でトヨタを抜き、韓国・現代自動車は主要市場の米国で一時、トヨタに肉薄した。小沢副社長は「いら立ちがある」と率直に言う。

それでも豊田社長は「背負っているものが違う」と国内生産を守る姿勢を貫いた。国内最大の製造業であるトヨタが安易に国内生産縮小に走れば、産業空洞化は決定になる。東日本大震災からの復興を後押しするため、東北の工場増産を何としても進めたい思いも強い。

震災後の迅速な復旧は、日本のモノづくり力

トヨタ、限界に挑む 東北で増産、復興後押し



国内販売の底上げで輸出比率を下げる

も日本依存を減らす」（小沢副社長）。国内生産維持のため、トヨタは為替感度の低減と国内生産の競争力の再構築を柱とした抜本的な改革を始めた。

1月には、「BR現地生産・現地調達推進室」を新設。技術力が高く日本での生産に頼っていたユニット部品を含めて輸出を減らし、海外で地産地消の体制を構築する。

国内車両生産における輸入部品の比率を高めるため「輸入部品検討委員会」も立ち上げた。部品の輸入で一部の国内雇用は失われるが、車両生産が流出するよりは影響は少ないとの判断だ。11年には韓国企業との商談会を数回開催した。

主要産業の動向

調達は海外比率高める

名古屋駅前のランドマーク

ミッドランドスクエア

屋外展望施設スカイフロムナード

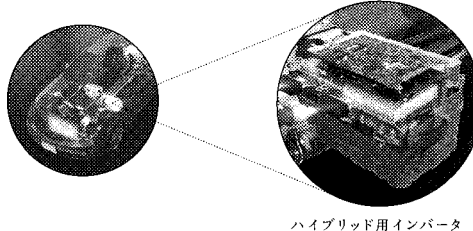
商業棟アトリウム

東和不動産株式会社
www.midland-square.com



地球がずっと輝くために、クルマがずっと愛されるために。

ハイブリッドカーの進化。
そこに、デンソーの最新技術。



ハイブリッド用インバータ

クルマがずっと愛されるために
DENSO
www.denso.co.jp



自然と暮らしにつながる、モノづくり。

街や暮らしの、多彩なシーンに息づく技術。ページをめくると、豊田自動織機がそこに。

豊田自動織機
TOYOTA INDUSTRIES
www.toyota-shokki.co.jp